

美術館はもう少しふにやっとしていてもいいかもしれません

SMoA

# やわらか 大計画

## 「SMoA やわらか大計画」ってなに？

美術館に何らかの理由で訪れにくかったり、利用しづらかったりする人たちがいます。そこでわたしたちは、美術館が誰にとっても利用しやすく、居心地の良い存在になるにはどうすればいいのかを考え、さまざまな取り組みを始めました。滋賀県立美術館がふにやっとなんかやわらかくなって、みんなにとって開かれた美術館になるようにわたしたち自身を変化させていく、それが「SMoA やわらか大計画」です。ちなみにSMoAは、滋賀県立美術館の英語名称「Shiga Museum of Art」の頭文字をつなげたものです。

# 3つの計画によって やわらかくしていきます

美術館には、作品を集めて(収集)、大切に残して(保存)、くわしく調べて(調査・研究)、ならべて紹介し(展示)、学びや楽しみを伝える(教育・普及)という役割があります。けれどこれからの美術館は、これらの役割に加えて、あらゆる立場の人にとってアクセスしやすく、さまざまな経験ができる場所になることも求められています。

滋賀県立美術館は、いろいろな人や地域とつながったり、アートによって健康や幸福を得ることができたりするような機会をつくることで、誰もが安心して自分らしく利用できる美術館になることを目指します。そのために、「SMoA やわらか大計画」は、3つの計画を中心に進めていきます。

## みんなを ウェルカムする計画

障害の有無にかかわらず、誰もが必要な情報を受け取り、アクセスしやすくなるようにします。

## 一緒に テーブルにつく計画

美術館にアクセスしづらさを  
感じている人たちや、その支援者たちと  
一緒に考えます。

## 新しくトライする計画

いろいろな施設や当事者の方に  
協力していただきながら、  
新しいプログラムの開発に取り組みます。

# これまで取り組んできたこと

- 「みんなをウェルカムする計画」
- 「一緒にテーブルにつく計画」
- 「新しくトライする計画」

2026

2021

2021年 6月

**滋賀県立近代美術館から  
滋賀県立美術館に  
名前を変えて再開館！**

作家やご遺族の  
ご理解を得て、  
さわれる作品を収集  
しています。

2022年 1月

**レプリカの制作と  
さわれる作品の収集**

「見る」以外の鑑賞もあるのでは？と考え、  
さわって作品を味わう方法を展示に  
取り入れました。



▲澤田真一《無題》(2007年)のレプリカを  
さわって鑑賞の様子  
写真：衣笠名津美  
提供：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

2021年 10月

視覚障害のある方が来館された時に、どのように美術館が対応できるかを相手に寄り添いながら話し合うことができなかつたため、入館されずにお帰りになった事例がありました。

2023年 10月

**「みかた」の多い美術館展**

どんな風😊に作品を楽しむか、  
さまざまな方と美術館とで一緒に考えた  
それぞれの鑑賞方法を来館者が体験できる  
企画展を開催しました。



▲車椅子ユーザーと一緒に展示方法を考える様子

2023年 10月

**しーんとしなくていいですよ！**

企画展のチラシやホームページに  
来館を迷っているお困りごとのある方  
に向けてメッセージを書くことを始めました。

▲企画展のチラシのメッセージ

2023年 10月

**触図の制作**

当館の所蔵作品の触図をつくり、  
常設展で作品と一緒に展示をしました。  
触図とは、何が描かれているかをさわって  
知ることができるよう、凸凹や異なる触感で  
伝える図のことです。



▲展示室3の近くに  
常設で設置

2024年 8月

**カームダウン・  
クールダウンスペースの設置**

光や音が苦手な方や、緊張などの  
ストレスやパニックが不安な方が  
落ち着くためのスペースを、館内に仮設で  
設置しました。2025年4月からは、  
常設で設置しています。



作家、視覚障害のある方、  
触図制作者と一緒に考えて  
作った触図もあります。

2024年 11月

国立アートリサーチセンターの「ふかふかTV\*」に当館の視覚障害のある方との鑑賞方法の取り組みが取り上げられました。

\*ミュージアムのアクセシビリティについて学ぶオンライン講座番組。当館は全7回のうち第3回に取り上げられました。

2025年 2月

**高齢者施設との試行**

地域の高齢者施設「カーサ月の輪\*」と試行を開始。  
入居者の方と一緒に当館の展示室で作品を鑑賞しました。



▲展示室3の近くに常設で設置

2025年 3月

**「県美と一緒に〇〇したい！」開催**

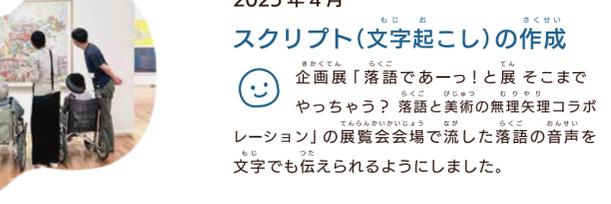
～滋賀県立美術館のこれからをみんなで考えるワークショップ\*～

\*「滋賀県立美術館整備基本計画」の策定に向けた取り組みのひとつ。

2025年 4月

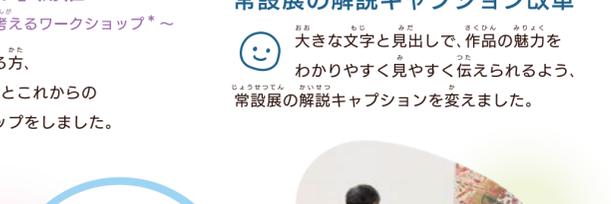
**ESMoA やわらか大計画 始動！**

これまでの取り組みをもっと広く深く美術館全体で進めていけるよう「大計画」と名前をつけてプロジェクトにしました。



2025年 4月

**聴覚障害のある方が来館されたときに、筆記でのコミュニケーションは遠慮されたので、受付スタッフがマスクをとって口の動きで情報を伝え、案内をしました。**



2025年 4月

聴覚障害のある方が来館されたときに、筆記でのコミュニケーションは遠慮されたので、受付スタッフがマスクをとって口の動きで情報を伝え、案内をしました。

2025年 4月

**スク립ト(文字起こし)の作成**

企画展「落語であっ！と展」まで  
やっちゃおう？落語と美術の無理矢理コラボレーション」の展覧会会場で流した落語の音声も文字でも伝えられるようにしました。

2025年 6月

**常設展の解説キャプション改革**

大きな文字と見出しで、作品の魅力を  
わかりやすく見やすく伝えられるよう、  
常設展の解説キャプションを変えました。



2025年 8月

**バリアフリーツアー開催**

地域のNPO法人BRAH=art.と一緒に企画した  
「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」で、視覚障害のある方と高齢者の方を対象としたバリアフリーツアーを開催しました。

2025年 8月

**「教えて！もっと行きたい美術館\*」開催**

滋賀県内の小中学生に、  
もっと行きたい美術館はどんな美術館かを  
考えてもらうワークショップを開きました。  
\*「滋賀県立美術館整備基本計画」の策定に向けた取り組みのひとつ。



2025年 9月

ストレッチャーユーザーの方が来館されました。胃腸\*の方のための休憩スペースを支援者の方と一緒に考え、使用してもらいました。  
\*食事が飲み込めない人が腹面に穴をあけチューブを通して、直接胃へ栄養や薬を届ける手法のこと。

2025年 8月

**子ども若者支援施設との試行**

滋賀県北西部にある高島市の「あすくる高島\*」の子どもたちが来館し、学芸員と一緒に展示室をまわりながら作品を鑑賞しました。  
\*高島市子ども未来部こども家庭センター少年センター(あすくる高島)は滋賀県北西部に所在する施設。当館まで車で1時間20分ほどの距離があります。

2025年 8月

**フリースクールとの試行①**

フリースクールの「適応教育教室ハーフステップ\*」へ伺い、ものづくりワークショップの試行をしました。

\*適応教育教室ハーフステップは、瀬田地域にあるフリースクール併設の日中一時支援事業所。

2025年 10月

**失語症の方との対話鑑賞の試行**

「滋賀県立むれやま荘\*」に入所している失語症の方との対話鑑賞を始めました。2026年2月までに4回実施していて、どのような効果があるかをむれやま荘の言語聴覚士と一緒に調べているところです。



▲児童生徒がつくった作品

2025年 11月

**フリースクールとの試行②**

フリースクール「シンズ\*」の子どもたちに協力してもらい、当館での作品鑑賞とワークショップをしました。2026年3月に2回目を試行予定です。  
\*特定非営利活動法人Sinceは近江八幡市で活動するフリースクール。



2025年 12月

**病院に併設する特別支援学校との試行**

滋賀県内の病院に併設されている特別支援学校に伺い、児童生徒と一緒にアルミホイルを使ってのものづくりに挑戦しました。



▲児童生徒がつくった作品

2026年 2月

**知的障害、発達障害のある方との対話鑑賞**

当館で対話鑑賞のファシリテーターを務めるボランティアの研修で、BRAH=art.の利用者の方にお客さん役をお願いしました。

利用者の方の対話鑑賞をどのように進めると安心して楽しくできるかの意見をいただきました。

2026年 3月(予定)

**ソーシャルストーリーの作成に向けて**

ソーシャルストーリーとは、誰もが安心して来館できるよう、来館方法や美術館での過ごし方を、事前にパンフレットやホームページから知ることができるものです。当館のソーシャルストーリーを作成するにあたって、知的障害、発達障害のある方とその支援者にご意見をいただく予定です。

2026年 3月(予定)

**視覚障害のある方との鑑賞方法の研修**

視覚障害のある方にどのように当館を楽しんでいたかについて学ぶ、館内職員を対象とした研修を予定。視覚障害のある方に協力いただき、ご意見をいただくとしています。

遠隔地にある施設と  
どのようにつながることが  
できるかが課題のひとつです。

子どもたちにとって  
美術館が  
サードプレイスになる  
可能性を探っています。

10月にも  
ハーフステップの  
子どもたちと  
ものづくりをしました。

作品を通して  
対話をするのがリハビリの  
一環になるのではないかと  
考えています。

だ い け い か く

# 大計画は

これからつづも続きます！

これまで、いろいろな方にご協力いただき、プログラムを開発したり、  
試行をしたりしてきました。当館を利用された方々からいただいた  
ご意見からの学びもたくさんありました。これからも、みなさんと一緒  
に考え、ご意見を聞きながら取り組んでいきます。当館が誰にとっても  
使いやすい、もっとワクワクするような建物に生まれ変わるよう、  
今ある建物をなおしたり展示室などを増やしたりする計画も進めてい  
るところです。わたしたちは、美術館の利用方法をいくつもの選択肢  
の中から誰もが自分で選べるようなプログラムづくりをしていきたい  
と、また、人や地域とのつながりを誰もが得られるような機会をつ  
くっていきたいと思っています。そして、みんなが安心して過ごす  
ことのできる美術館を目指していきます。

「SMoA やわらか大計画」は、  
まだ始まったばかりです。

ふにゃっと  
やわらかくなっていく  
滋賀県立美術館に、乞うご期待！

# 社会も変わってきています

## 博物館、美術館の新しい定義

「博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、愉しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する」

2022年8月にチェコのプラハで開かれた ICOM（国際博物館会議）の大会で、新しい博物館（美術館を含む）の定義が採決されました。

上の文章はその新しい定義の日本語訳です。近年の博物館、美術館は、個々の違いを尊重し、あらゆる立場の人が自分らしく利用し、様々な体験ができる開かれた場としての役割を求められています。

## それぞれの困りごとを解消するために

「障害者差別解消法」という、差別のない社会をつくるための法律があります。2024年4月からこの法律が新しくなり、規模や設置状態にかかわらず、あらゆる事業者に対して「合理的配慮」を提供することが義務づけられました。わたしたち公立美術館も事業者にあたります。「合理的配慮」とは、障害などの理由でサービスを利用することが難しいと感じている人に対し、事業者ができる限りの工夫をして、その困りごとを解消しなければならないという決まりです。

## 社会的処方取り組み

「社会的処方」とは、薬による治療だけでなく、人と人のつながりや社会参加の機会を「処方」されることにより、孤独・孤立や生きづらさといった課題を解決するという考え方や仕組みのことです。アート鑑賞やワークショップといった体験のある美術館は、社会的処方を実現できる場所のひとつになることが期待されています。

\* ICOM（国際博物館会議）とは、世界中から博物館に関係する人が集まって、博物館はどのようにあるべきかを話し合ったり、交流の場を持ったりする国際的な組織です。